

二世五姓田芳柳(にせい ごせだほうりゅう)

1864年9月7日-1943年1月9日

明治洋画界のパイオニアである初代五姓田芳柳に才幹を見込まれ芳柳号を継承した画家

下総国猿島郡沓掛村(現、茨城県坂東市)に生まれる。旧姓倉持、幼名子之(ねの)吉(きち)。幼少から画を好み、1878年(明治11年)15歳で上京し、五姓田義松の画塾に入る。英国人画家チャールズ・ワーグマンに通い指導を受ける。初代五姓田芳柳の末娘と結婚し、婿養子となり芳雄と称する。のちに芳柳号を継承。工部美術学校のサンジョバンニに油彩画、カッペレッティに遠近法の指導を受ける。

1889年(明治22年)、「明治美術会」創立に協力、創立会員となる。パノラマ画やジオラマをしばしば手がける。義和団の乱の一場面をパノラマ化するため、北京、天津へ調査旅行にも赴いた。1910年、農商務省嘱託となり渡英、日英博覧会にジオラマ「日本古代より現代に至る風俗変遷図」を制作、名誉賞状をうける。

1917年(大正6年)、明治神宮奉賛会嘱託となり、聖徳記念絵画館壁画下絵八十題を制作。また、日本赤十字社の特別社員であった。1926年(大正15年)のフィラデルフィア万国博覧会に「関東大震災赤十字社救護活動図」を出品している。

出典：明治神宮外苑奉獻80周年記念特別展「二世五姓田芳柳と近代洋画の系譜～近代の歴史画の開拓者」／「二世五姓田芳柳の世界～日本近代洋画の先駆け」